

2020 年度 第 2 回 8 月 九 大 本 番 レ ベ ル 模 試 地 理 採 点 基 準

**1 単答記述問題**

誤字，脱字，漢字間違いは 0 点。

**2 論述問題**

- ① 「設問別加点基準」に基づき加点する。また，その他各問題の主旨に適した解答にも適宜加点する。ただし，満点を超える得点は与えない。
- ② 以下の「共通減点基準」に基づき減点する。

**3 共通減点基準**

- ① 加点要素における誤字・脱字および漢字の間違いは 1 点減点。
- ② 下線の付け忘れは 1 点減点。
- ③ 指定用語不使用は 1 点減点。
- ④ 字数オーバーは 1 点減点。

\*減点しなくていい要素，その他の注意

- ① 地理用語に関して，漢字の新字体／旧字体や，スロヴェニア⇔スロベニア，パキスタン⇔パーキスターンといったカタカナ表記の通念の範囲内での異体に関しては減点はしない。
- ② 加点要素以外で誤った記述があった場合，その部分は 0 点だが，減点はしない。
- ③ 加点項目は内容的に整合性が取れていればよく，字句の順序や表現は必ずしも完全に一致していなくてもよい。
- ④ 文章が未完のものも減点しない。

**4 採点記号について**

- 1. <□□□□> 加点ポイント
- 2. □□□□× 事実誤認あり
- 3. □□✓□□ 誤字あり／脱字あり

## 5 設問別加点基準

- 1) \_\_\_\_\_ 部分は必須キーワードであり、この表現がなければ当該加点ポイントにおける加点はしない。その他は同義であれば加点する。
- 2) ○○／△△ は「○○でも△△でも可」を意味する。
- 3) 「② (①の説明として)」は、加点ポイント①を正解していなくても、加点ポイント②に該当すれば加点する。
- 4) 「 A 」が「 B 」→1 点 は、「 A 」と「 B 」の両方の要素があれば 1 点加点する。
- 5) [指定語句] は、解答文中のどこかで使用していれば減点しない。

[1]

問 1 20 点 [指定語句] 交通機関 短期周遊型 (下線不要)

※指定語句不足は 1 語につき -1 点

日本では週休日以外の休日が多く、自由に休みがとれる年次有給休暇が少ない。そのため、長期休暇がとりにくく、長期滞在型の余暇活動が定着するヨーロッパとは異なり、短期間で観光地を巡る短期周遊型の余暇活動が中心となっている。日本の余暇活動の時期は年末年始やゴールデンウィークなどの特定の休日に集中するため、交通機関や宿泊施設では繁忙期と閑散期の差が大きく、年間を通して稼働率が安定しないので経済効率は悪い。

### 【加点ポイント】

i) 日本の休日と余暇活動について (9 点)

- ① 週休日以外の休日が多い／祝日 (祭日) による休日が多い →3 点
- ② 年次有給休暇が少ない／長期休暇が取りにくい →3 点
- ③ 短期周遊型の余暇活動が多い／短期間で観光地を巡る旅行が多い  
長期滞在型の余暇活動が定着していない →3 点

ii) ヨーロッパの休日と余暇活動について (3 点)

- ① 年次有給休暇が多い／長期休暇が取りやすい  
／長期滞在型の余暇活動が定着する／バカンスをとる人が多い →3 点
- ii) 観光業の問題点について (8 点)
  - ① 時期が特定の期間に集中する／ゴールデンウィークや年末年始に集中する  
／盆 (夏休み) や正月に集中する／繁忙期と閑散期の差が大きい  
／特定の期間だけ交通機関や宿泊施設が混雑する →5 点
  - ② (①により) 交通機関や宿泊施設の稼働率が安定しない  
／観光関連施設の経済効率が悪い →3 点

問2 20点 [指定語句] 観光収入 公共投資 地域振興 (下線不要)

※指定語句不足は1語につき-1点

リゾート法による開発は、自然環境の豊かなところに巨額の資本を投下してリゾートホテル、ゴルフ場などを建設するものが中心であった。自治体では固定資産税や観光収入は増加したが、上下水道の整備やごみ処理費用などの公共投資が増大し、財政負担が大きくなったことに加えて、自然環境の破壊や地価高騰などの問題も引き起こした。さらに、バブル経済の崩壊によって経営が行き詰まり、地域振興の目的を果たせないものも多かった。

【加点ポイント】

i) 開発の特徴について (6点)

① リゾート施設を建設した

↙ (リゾートホテル/リゾートマンション/ゴルフ場/スキー場/マリーナなど)

／巨額の資本投下によるものが多い →3点

② (開発地では) 観光収入が増加した／固定資産税が増加した／地域振興がなされた

／公共投資により雇用が増えた／雇用機会が増えた →3点

ii) 問題点として (14点)

① 公共投資が増大した／財政負担が大きくなった →3点

② (①の具体例) インフラ整備／道路の整備／上下水道の整備／ごみ処理費用 →2点

③ 自然環境の破壊 (生態系の破壊／海洋汚染／森林破壊／土壌流出／土壌汚染など)

→3点

④ 地価の高騰／土地の買い占め／交通渋滞／騒音／住民生活に支障 →3点

⑤ バブル崩壊による経営破綻／倒産 (閉鎖) した施設も多い

／地域振興の目的を果たせなかった →3点

問3 10点

グリーンツーリズムとは都市生活者が農村に滞在しながらその地域の自然や生活文化に触れ、農作業を体験する余暇活動のことで、農産物の地産地消や農村での雇用機会の拡大などが地域の活性化につながると期待される。

【加点ポイント】

i) 従来の観光との違いについて (6点)

① (滞在先として) 農村／農山漁村／山村／漁村／農家／農家民宿／ →3点

② (特徴) 自然や生活文化に触れる／地域の人々と交流する

／農作業 (漁業／林業／産物加工／農漁村生活) を体験する →3点

ii) 期待される効果について (4点)

- ・ 農産物の地産地消／地域産物の消費拡大
- ・ 農村での雇用機会の拡大／宿泊施設や飲食店の雇用拡大
- ・ 農村地域の活性化／農村地域の経済振興
- ・ 農村文化の継承
- ・ 農村での暮らしを通じて都市生活者が安らぎを得る

} 1つ2点 4点まで

(※「過疎化の解消」では加点しない)

[2]

問1 各2点×5

カ：e キ：d ク：c ケ：b コ：a

問2 20点 [指定語句] 

円高	人件費	高付加価値
----	-----	-------

 (下線不要)

※指定語句不足は1語につき-1点

多くの製品が開発段階にあった時期は、技術力の高い日本に多くの生産拠点が立地した。その後、円高で日本国内の生産費が高騰する中、製品の標準化で大量生産が可能になると、生産拠点が次々と人件費の安い中国に移された。しかし、近年は高い技術を要する高付加価値製品を中心に日本への生産拠点の回帰もみられる。

【加点ポイント】

(★問1の「カ：e」を正解していることを加点の前提とする)

i) 初期(1980年代の中頃まで)の段階として(6点)

- ①(生産の特徴) 開発段階の時期/製品生産当初 →2点
- ②(生産拠点) 日本 →2点
- ③(②の背景) 日本の技術力が高かった/日本の工業化が先んじていた  
/東アジアの他国は技術力が低かった(工業化が進んでいなかった) →2点

ii) 次の段階(1980年代以降)として(8点)

- ①(生産の特徴) 製品の標準化が進む/大量生産が可能となる →2点
- ②(生産拠点) 中国/台湾 →2点

(※「東アジア」なので東南アジア各国は加点しない

「東南アジアに移った後、中国に移った」として加点する)

- ③(②の背景) 円高 →2点
- ④(②の背景) 日本の人件費の高騰/中国(台湾)は人件費が安い  
/生産コストを下げるため/人件費を削減するため →2点

iii) 近年について(6点)

- ①(生産拠点) 日本への回帰がみられる/日本での生産も増加している →3点
- ②(生産の特徴・背景) 高付加価値製品の生産/高い技術を要する製品の生産 →3点

問3 20点

中国や韓国の農民1人あたりの農地面積は、企業的穀物農業の盛んな新大陸の国々に比べ小さい。そのため、穀物の単位収穫量あたりの労働コストが高くなり、大量輸入するには価格が高めになる。一方、野菜は、鮮度を保ちながらの輸送にコストがかかるため、日本にとっては距離の近い中国や韓国が輸入先として適している。

【加点ポイント】

i) 日本の穀物輸入について (10点)

- ① (中国や韓国からの輸入が少ない要因) 価格が高い →3点
- ② (①の理由) 単位収穫量あたりの労働コストが高い  
／集約的農業により労働コストが高い  
／農地面積が小さく大量生産できない →3点
- ③ (多い輸入先として) 新大陸の国々／アメリカ合衆国／カナダ／オーストラリア →2点
- ④ (③の理由) 企業的穀物農業が盛ん／大型機械の導入  
／農地面積が広く単位収穫量あたりの労働コストが低い →2点

※ [i) ①②の別解]

- ① (中国や韓国からの輸入が少ない要因) 穀物の輸出余力がない →3点
- ② (①の理由) 中国は人口が多いため国内消費量が多く、韓国は生産量が少ない →3点

ii) 日本の野菜輸入について (10点)

- ① (野菜の輸入について) 鮮度が重要である／鮮度を保つと輸送コストがかかる  
／輸送時間が長いと野菜が傷む →5点
- ② (中国・韓国からの輸入が多い理由) 日本との距離が近い  
／日本への輸出用に大規模に野菜を栽培している →5点